

古墳時代祭祀場の出土品

かっせき

たま

滑石の玉

5世紀

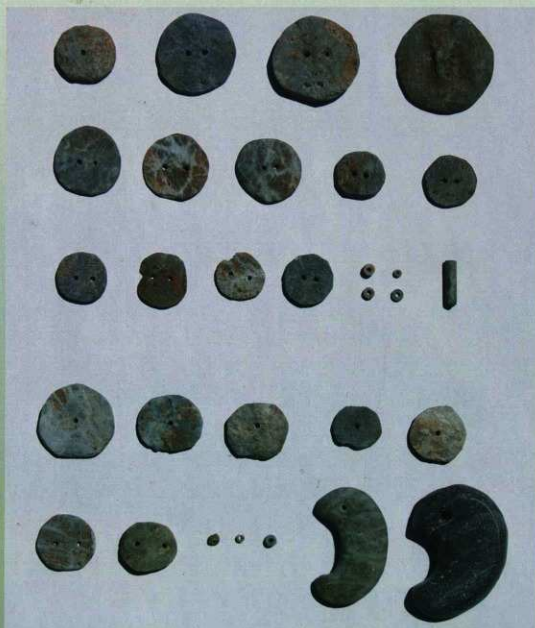
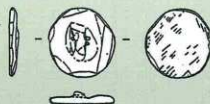
下鉤遺跡 shimomagari

- 品名 滑石製品
種類 SD103（単孔円盤、双孔円盤、鏡形模造品、管玉、白玉）
SD52（単孔円盤、双孔円盤、勾玉、白玉）

材質 滑石

年代 古墳時代中期（5世紀）

特記事項 有孔円盤は単孔、双孔の2種類があり、大きさは大中小に分けられる。鏡を模したものとされているが、SD103から出土しているような鏡を忠実に模した石製品が一緒に出土することがあるので否定的な見解もだされている。



▲上段SD103祭祀場①、下段SD52祭祀場②出土滑石製品

実測図 S=1/2



▲SD103祭祀場①双孔円盤

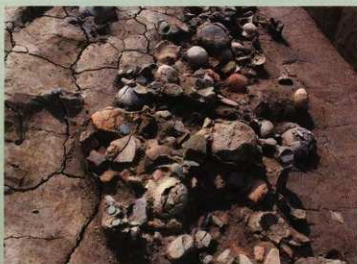
◀SD103祭祀場①土器群



▲SD52祭祀場②勾玉



▲SD52祭祀場②白玉と双孔円盤



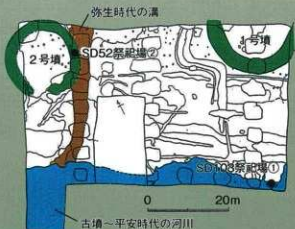
▲SD103祭祀場①土器群と滑石製品出土状況

古墳時代の祭祀場と古墳

祭祀場については、滑石製品を多数使用した祭祀跡が2か所で見つかっています。SD103の肩口でみられた水辺の祭祀と推定されるもの。もうひとつは、古墳（2号墳）の周溝SD52でおこなわれた祭祀です。

下鈎遺跡では、2005年に調査された祭祀土坑も含めて滑石製品を多数使用した祭祀がムラの各地で行われていたことになります。通常集落から玉類が多数出土する場合は玉つくり集団との関連が想定でき、今回確認された古墳との関連が想定できます。調査地周辺では、これまで古墳時代前期末から中期とされる一辺9～12mの方墳が6基確認されていました。

今回確認された2基の古墳（1号墳：直径約16m円墳、2号墳：直径約13m円墳）と比較すると墳形が円と方で違いがみられ、規模が大きく集落内の長もしくは副長クラスの墓と推定されます。



2016R095-01調査地遺構図